

## 1. 略歴

- 1987年4月 東京大学教養学部文科Ⅲ類入学  
1990年10月 第二回ソ連給費留学生としてロシア国立レニングラード大学留学（～1992年9月）  
1993年3月 東京大学教養学部教養学科第二地域文化学科(ロシアの文化と社会) 卒業  
1996年3月 東京大学大学院人文社会系研究科（スラヴ語スラヴ文学）修士課程修了  
1996年4月 東京大学大学院人文社会系研究科（スラヴ語スラヴ文学）博士課程進学  
1999年9月 東京大学大学院人文社会系研究科（スラヴ語スラヴ文学）博士課程単位取得退学  
1999年10月 北海道大学スラブ研究センター・COE 講師  
2000年4月 神戸大学国際文化学部・講師  
2001年4月 神戸大学国際文化学部・助教授  
2001年8月 ロシア国立人文大学人文歴史学部（モスクワ）にて研修  
（文部省派遣若手在外研修 ～2002年4月）  
2003年1月 学位・博士（文学）取得  
2007年4月 神戸大学大学院国際文化学研究科・准教授  
2010年8月 イギリス・ケンブリッジ大学ウルフソン・コレッジおよびロシア国立人文大学人文歴史学部にて  
研修（神戸大学若手教員長期海外派遣プログラム ～2011年4月）  
2016年4月 東京大学大学院人文社会系研究科(スラヴ語スラヴ文学) 准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

ロシア文学・ロシア文化論、ロシア演劇史。

### b 研究課題

主としてロシア語による文学・演劇・映画を素材として、芸術表現の特質と可能性、時代や社会による価値体系の変容や人間関係の諸相を明らかにすることを目的とする。

### c 主要業績

#### (1) 著書（共著・分担執筆）

- 小森陽一・沼野充義・兵藤裕己他編『講座 文学5 演劇とパフォーマンス』岩波書店, 2004年。[担当箇所:「メイエルホリドの演劇性ーチェーホフ, コメディヤ・デラルテとの出会い」, 145-164頁]  
国際シンポジウム「記憶する都市ー神戸の街路から新しい人間科学を」実行委員会編『記憶する都市』かもがわ出版, 2006年。[担当箇所:「都市を読む/都市になる サンクト・ペテルブルグはいかにつくられるか」, 166-175頁]  
望月哲男編著『創像都市ペテルブルグー歴史・科学・文化』北海道大学出版会, 2007年。[担当箇所:「ナルキッソスの水に映る街ー劇場都市ペテルブルグ」, 211-240頁。]  
沼野充義編『芸術はなにを超えていくのか? 未来を拓く人文・社会科学15』東信堂, 2009年。[担当箇所:「『祖国』って持ち運べますか?」, 119-129頁。]  
ТАТЭОКА, Куми Театральные взаимовлияния России и Японии, в кн. под ред. Итин К. «Светлост са Истока», Београд, филолошки факултету Београду, 2014, сс. 187-193。[コルネリヤ・イチン, 山崎佳代子編『東方からの光』ベオグラード大学出版, 2014年。[担当箇所:「日露演劇における相互影響関係について」, 187-193頁。]]  
中村唯史編著『ロシアの南』山形大学出版, 2014年。[担当箇所:「創造と継承: エレヴァンの演劇事情紹介」, 223-242頁。]

#### (2) 論文

- 楯岡求美 「オストロフスキー原作『森林』における対比の構造」ロシア文化研究論集『エチュード』創刊号(ロシア文化研究サークル<<КРУК>>, 1994年), 58-68頁。  
楯岡求美 「変容するコロンビーナー『見世物小屋』」(東京大学大学院人文社会系研究科スラヴ語スラヴ文学教室論集『SLAVISTIKA XI』1995年), 311-333頁。  
楯岡求美 「語りえぬものについて メイエルホリドとモンタージュ手法の変遷」(『現代思想』vol.25-4, 青土社, 1997年), 184-195頁。

- 楯岡求美 「メイエルホリド演出『森林』(1924年)について ―演劇におけるアトラクションのモンタージュ―」(『ロシア語ロシア文学研究』第29号,日本ロシア文学会,1997年),72-86頁。[査読あり]
- 楯岡求美 「拡張する身体感覚―ロシア・アヴァンギャルドと身体―」(『旧ソ連・東欧諸国の20世紀文化を考える』スラブ研究センター研究報告シリーズNo.64,1999年),70-76頁。
- 楯岡求美 「メイエルホリドにおけるファルスを受容 ―1920年代初頭のメイエルホリド演出作品について―」(多分野交流演習論集『とどまる力と超え行く流れ―文化の境界と交通―』東京大学大学院人文社会系研究科多分野交流プロジェクト,2000年),225-232頁。
- 楯岡求美 「演出という再-創造―オレーシャの戯曲『善行目録』上演に見る演出と原作の間―」(『ロシア語ロシア文学研究』第32号(日本ロシア文学会),2000年),166-178頁。[査読あり]
- 楯岡求美 「現代ロシア演劇における言葉と身体」『現代芸文のフロンティア(II)』(スラブ研究センター研究報告書シリーズNo.76,2001年),76-81頁。
- TATEOKA, Kumi “Transformation of Words: Theater Performance as the Alienation of the Play’s Verbal Structure”(in Russian), // *Russkaia kul’tura na poroge novogo veka*, Slavic Research Center, Hokkaido University, Sapporo, Japan, 2001, pp.142-147.
- 楯岡求美 「ロシアの演劇状況と文化基盤としての地方劇団」(『国際文化学研究』第16号,神戸大学国際文化学部紀要,2001年11月),67-76頁。
- 楯岡求美 「演劇のルネッサンスをめざして―モスクワ2001/02シーズン」(『国際文化学研究』第18号,大学国際文化学部紀要,2002年),41-54頁。
- 楯岡求美 「二十世紀とロシア演劇―アヴァンギャルドと普遍性への夢―」(『近代』95,神戸大学近代発行会,2005年),183-196頁。
- 楯岡求美 「ロシア演劇における近代化と異文化接触―メイエルホリドトコミッサルジェフスキーの場合」(科研基盤(B『スラヴ世界における文化の越境交錯 報告書』,課題番号15310171),2005年),115-128頁。
- 楯岡求美 「レールモントフ『現代の英雄』におけるメタシアターの構造」(『ロシア語ロシア文学研究』第39号(日本ロシア文学会),2007年),100-107頁。[査読あり]
- 楯岡求美 「演劇における感情の伝達をめぐる―スタニスラフスキー・システム形成過程についての一考察」(『国際文化学研究』第35号,神戸大学国際文化学部紀要,2010年),73-175頁。
- Татеока, Куми О японских фильмах и спектаклях, // в сборнике «Диалог армянской, русской и японской культур: Опыт сравнительного анализа», Ереван, издательство Российско-армянского университета, 2014, марта, сс. 124-134. [「日本の映画,演劇について」『アルメニア,ロシア,日本の文化的対話』報告集,エレヴァン,ロシア=アルメニア大学刊行),2014年,124-134頁。]
- (3) 評論・エッセイ・辞書項目など
- 楯岡求美 「ヴァシリエフ演出『ヨシフとその兄弟たち』 利賀演劇フェスティバル報告」(『ユーラシア研究』2号,ユーラシア研究会,1994年),56-58頁。
- 楯岡求美 「ポグレブニチコ演出チェーホフの『かもめ』について」(東京大学大学院人文社会系研究科スラヴ語スラヴ文学教室論集『SLAVISTIKA XIII』1998年),238-243頁。
- 楯岡求美 「ジャンルを超える新しい音楽 ―アレクセイ・アイギと<アンサンブル四分三十三秒>―」(『ユリイカ』1999年7月号,青土社),246-247頁。
- 楯岡求美 「メイエルホリド」および「エイゼンシュテイン」の項目(『ユダヤ学のすべて』(沼野充義編)新書館,1999年),172-173頁。
- 「メイエルホリドとアヴァンギャルド演劇」(『週刊朝日百科世界の文学71号 革命と文学』,朝日新聞社,2000年),14-15頁。
- 楯岡求美 「2001年シーズンのロシア演劇―モスクワを中心に」(『Theatre Year-Book 2002 Theatre Abroad(諸外国の演劇事情)』ITI Japan Center ((社)国際演劇協会,2002年),140-144頁。
- 楯岡求美 項目「メイエルホリド」,「フォメンコ」,「メンシコフ」,「ドージン」,「芸術教育(補筆)」(『ロシア/ソ連を知る辞典』平凡社,2003年)。
- 楯岡求美 「ゴリョヴリョフ家の人々」(『ユリイカ』11月号,青土社,2003年),238-239頁。
- 楯岡求美 「『かもめ』の新しさ」(神劇まわり舞台第84回公演劇団どろプロデュース『かもめ 4幕の喜劇』(A..チェーホフ原作)公演パンフレット),2003年,3-5頁。
- 楯岡求美 「恋の言語化の果てに―アナトリー・ヴァシリエフ演出『オネーギン』―」(『演劇人』16号,財団法人舞台芸術財団演劇人会議,2004年),131-135頁。

楯岡求美 「ロシア演劇2004 自己のルーツを探る旅 —モスクワ、サンクト・ペテルブルグ—」(『Theatre Year-Book 2005 Theatre Abroad (諸外国の演劇事情)』ITI Japan Center (社)国際演劇協会, 2005年), 242-246頁.

楯岡求美 「ロシア演劇と『酸素』」(『ユーラシア研究』No.33, 2005年), 27-31頁.

楯岡求美 「ロシア芸術のいま4 演劇」(北日本新聞2006年7月26日号), 18頁.

楯岡求美 「イマジネーションの祝祭—メイエルホリドが歌舞伎に見たもの」(『国文学』1月号, 学燈社, 2007年), 84-87頁.

Куми ТАТЭОКА «Дальнейшей тишина или ...» [楯岡求美「あとはただ沈黙のみ、または・・・ 京都の劇団「地点」について」(ロシア語, 劇団地点『ワーニャおじさん』, 『桜の園』モスクワ公演パンフレット), 2011年.

Куми ТАТЭОКА «Кто вы, Кориолан?» [楯岡求美「「コリオレイナス、あなたは誰？」」(ロシア語, 地点『コリオレイナス』サンクト・ペテルブルグ公演パンフレット, 2011年5月. 日本語版, 京都公演パンフレット, 2012年).

Куми ТАТЭОКА ««Фасер» в театре Читэн: собиная фрагменты мозаики» [楯岡求美「「劇団地点の『ファツア』: ジグソー・パズルのピースを掻き集めて」」(ロシア語, 劇団地点『ファツア』モスクワ公演パンフレット, 2014年.

Куми ТАТЭОКА «Страстное желание к недостигаемому - «Чайка» в постановке театра «Читэн»» [楯岡求美「到達しえないものへの渴望: 劇団地点の『かもめ』」(ロシア語, 『かもめ』ヤロスラブリ公演パンフレット, 2014年.

#### (4) 翻訳

[翻訳と解説] ウラジーミル・ソローキン「劇薬としての文学 —ドストエフスキーをゴム手袋をはめて読む?」(『21世紀 ドストエフスキーがやってくる』集英社, 2007年), 155-165頁.

#### (5) 口頭発表

「メイエルホリド演出『森林』(1924年)について」(日本ロシア文学会研究発表会, 1996年10月19日, 於: 創価大学).

「メイエルホリドによるロウ・カルチャーの応用について: 1920年代前期を中心に」(日本ロシア文学会研究発表会, 1997年10月3日, 於: 富山大学).

「拡張する身体感覚—ロシア・アヴァンギャルドと身体—」(1998年度センター冬季シンポジウムセッション「20世紀ロシア文学と身体」, 1999年1月29日, 於: 北海道大学スラブ研究センター).

ワークショップ《ナボコフ・オレーシャ生誕100年記念ミニ・シンポジウム「演劇・映像・文学の位相—ナボコフ・オレーシャを題材として」を企画、基調報告として「演出という再—創造: オレーシャの戯曲『善行—覧』上演(1931年)に見る、演出と原作の間」を報告。(日本ロシア文学会研究発表会, 1999年10月10日, 於: 東北大学).

「現代ロシア演劇における言葉と身体」(神戸大学国際文化学会研究発表会, 2000年5月15日).

「変異する言葉: 演劇と演出の位相」(ロシア語発表, 北海道大学スラブ研究センター夏季シンポジウム「ロシア文化: 新世紀への戸口に立って」, 2000年7月14日. (<The Transformation of Words: Theater Performance as the Alienation of the Play's Verbal Structure> Summer International Symposium "Russian Culture on the Threshold of a New Century" at Slavic Research Center (SRC) Hokkaido Univ. July, 2000. (In Russian)

「劇的空間としてのサンクト・ペテルブルグ—目で見る都市散策」(北海道大学スラブ研究センター公開講座, 2003年5月25日. 於: 北海道大学スラブ研究センター).

«Взаимное влияние театральных традиций: России и Японии» [「日露演劇交流: 歴史と展開」](日本セルビア研究集会, 2012年8月29日於: ベオグラード大学).

«О японских фильмах и спектаклях» [「日本の映画と演劇について」](国際シンポジウム『アルメニア、ロシア、日本の文化的対話: 比較研究の試み』, 2013年9月29日於: ロシア—アルメニア大学[アルメニア・エレヴァン]).

「ロシアにおける第一次世界大戦の芸術表象」(シンポジウム「第一次世界大戦とロシア」, 報告者 池田嘉郎, 楯岡求美, 討論: 伊藤順, JSSEES, 2014年10月5日, 於: 岡山大学).

「レールモントフ『仮面舞踏会』における女性表象と映像化・舞台化の問題」(日本ロシア文学会, 2014年11月1日, 於: 山形大学).

### 3. 主な社会活動

2002~2012年 日本ロシア文学会国際委員会委員

2007~2010年, 2013~ 日本ロシア文学会理事

2013年4月~ 北海道大学スラブ研究センター・共同研究員(現在に至る)